

予 算 要 求 資 料

令和 4 年度 3 月 補正 予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 ぎふ花き活用拡大推進事業費補助金（R5分）

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111 (内4113)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 補正要求額 5,000 千円 (現計予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	5,000	0	0	0	0	0	0	0	5,000
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

人口減少や高齢化に伴う市場規模の縮小、生産・流通コストの増加、新型コロナウイルス感染拡大後も需要減少と花きの経営環境は厳しさを増している。

また、若年層の花き園芸支出額が低く、このまま年齢を重ねることで低迷が続くことが懸念される。

落ち込んだ需要の拡大を図るため、これからの花き産業の振興には業界の壁を越えた異業種等からのアイデアを積極的に取り入れ、学生等のアイデアによる新商品、新サービス等を事業化し、若年層の花きへの関心を高め、花き活用促進となる年齢層の裾野拡大する必要がある。

併せて、企業等自主的に取組む花飾りに対して支援を行い新たな需要の掘り起しと県産花きの需要底上げを推進する必要がある。

(2) 事業内容

① コンペ等により提案された花き振興企画の活動支援（花き振興活動支援事業）

- ・学生等を対象として、花き振興に向けた企画やビジネスプランを「花き振興企画コンペティション」で募集し、学生等のアイデアを活用した新商品、新サービス開発、需要開拓等に向け優良企画・計画に対する活動に支援する。

② 企業などが実施する花飾りに対する支援（企業等花飾り支援事業）

- ・新型コロナウイルス以降も減少している需要の拡大に向け、花のある暮らしを身近に提案するため県産花きを活用した花飾りを実施する。

(3) 県負担・補助率の考え方

新たな販路や需要を獲得することは、花き生産振興を図る上で最優先して取り組むべき最も重要な事業である。花き業界以外の異業種からの提案は新たな商品開発や販路開拓に広がる可能性があり、若年層の花き活用促進が期待できる。

若年層の花きへの関心を高めることで、花き業界のこれからを見据えた就労支援にも繋がり、生産者の経営を向上させるためには強い支援が必要である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	5,000	ぎふ花き活用拡大推進事業費補助金
合計	5,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ぎふ農業・農村基本計画 (令和3年度～7年度)
- ・清流の国ぎふ花き振興計画 (令和3年度～7年度)

(2) 国・他県の状況

無

(3) 後年度の財政負担

県が財政負担する。

(4) 事業主体及びその妥当性

県の花き業界全体の活性化を図るためには、県が事業主体となることが妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	ぎふ花き活用拡大推進事業費補助金
補助事業者 (団体)	一般、企業 (理由) 学生や企業が提案する企画等実現や、花き装飾を実施するには、一般者や企業が妥当である。
補助事業の概要	(目的) 学生や企業等が提案する県花き産業振興に関する企画・計画をコンペなどを通じて新商品やサービス、販路開拓等の可能性を判断し、商品開発や販売力強化、新規需要開拓に取り組む学生等のアイデアによる新商品、新サービス等を事業化し、若年層の花きへの関心を高め、花き活用促進となる年齢層の裾野拡大する。 また、企業等の花飾りを積極的の実施できるよう支援を行い、県産花きの需要増大を図る。 (内容) (1) 新たな花き振興企画・事業の推進 ・学生等が提案する花き振興に関する企画、事業計画に基づいて実施する新商品、新サービス、需要開拓等に係る経費を支援 (2) 企業等が実施する花き装飾 ・企業等がオフィス等で自ら実施する花飾りに対する経費等を支援
補助率・補助単価等	定額・定率・その他 (例：人件費相当額) (1) 新たな花き振興企画・事業に係る経費：定額 (上限1,000千円) (2) 企業等が実施する花き装飾：定率(1 / 2以内)
補助効果	県産花きの需要増大や販売力の強化
終期の設定	終期 令和5年度 (理由) 花き消費の減退と低迷が依然続き、県花き生産額が年々減少しているため、新たな需要開拓のために異業種等との連携した取り組みが必要。

(事業目標)

<p>・終期までに何をどのような状態にしたいのか</p> <p>県内の花き生産者の経営の安定を図るため、新たな需要開拓に向けた企業による連携や花飾りを推進し、事業の開発事例や花飾りを実施する企業数を増やす。</p>

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R5)	達成率
① コンソーシアムによる連携開発事例	0	0	8	12	16	0%
②花きを用いた癒しの空間づくりに取組んだ企業数	0	0	18	20	20	0%

補助金交付実績 (単位：千円)	H30年度	R元年度	R2年度

(これまでの取組内容と成果)

令和2年度	<p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>令和5年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)</p> <p>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</p>	
(評価)	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花きへの関心を高めるとともに、花き活用促進となる年齢層の裾野拡大を図る。 ・企業のオフィス緑化等の、新たな需要掘り起しにより花き産業の振興が図られる。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)</p> <p>3：期待以上の成果あり(単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり)</p> <p>2：期待どおりの成果あり(単年度目標100%達成)</p> <p>1：期待どおりの成果が得られていない(単年度目標50~100%)</p> <p>0：ほとんど成果が得られていない(単年度目標50%未満)</p>	
(評価)	<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンソーシアムによる連携開発事例も単年度目標の2倍となり、期待以上の評価がある。 ・企業のオフィス緑化等に取り組んだ企業も目標数値をほぼ達成しており効果がある。

・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている

(評価)

2

- ・ 業界の壁を越えたアイデアを積極的に取り入れた、新商品開発や、若い世代の花き活用促進。
- ・ 県産花きを企業のオフィス緑化等に活用することで、県産花きの需要底上げを実施。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項

- ・ 県花き振興に向けた企画・計画について、花き分野が限定的であり、どのように周知し、関心を高めて提案されるか。
- ・ 花きの装飾については、花と緑の効果効用について周知し、オフィス緑化等を推進しやすい状況に誘導する必要がある。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

花き産業の振興には業界の壁を越えた異業種等からのアイデアを積極的に取り入れ、新商品、新サービス等の事業化を図り、若年層の花きへの関心を高めることで、花き業界のこれからを見据えた就労支援にも繋がり、生産者の経営を向上させるためには強い支援が必要である。